

今週のメニュー

■トピックス

◇リサイクルビジョン フォローアップが発行されました

■随想

◇オックスフォード便り（番外編：フランスその2）—蚤の市—

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇リサイクルビジョン フォローアップが発行されました

塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は平成19年5月末に公表した「リサイクルビジョン—私たちはこう考えます—」に則して塩ビリサイクル活動を一步一步進めています。平成23年7月20日に平成22年度の活動と進捗状況を「リサイクルに関する塩ビ業界の取組みと進展—リサイクルビジョン フォローアップ—」として公表しました。その概要を紹介いたします。

「リサイクルビジョン フォローアップ」の主な構成は以下の通りです。

(1) 塩ビ製品リサイクルトピックス

- ① 塩ビリサイクル支援制度の進捗
- ② 廃塩ビ製品のTR実証試験を実施し、関東地区における大手TR処理可能な2施設を新たに追加しました
- ③ リサイクル企業との協業により、塩ビリサイクル促進を図りました

(2) 各分野で塩ビ製品のリサイクルが各加工団体の活動で進展しています

- ① 管・継手 : リサイクル全拠点数が78に増加、約21千tをリサイクル
- ② 農業用ビニルフィルム : リサイクル率は71%と高い
- ③ 床材 : 20t弱の床材を回収・再利用
- ④ タイルカーペット : 15千tをリサイクル
- ⑤ 塩ビ壁紙 : 6%以上をリサイクル
- ⑥ 塩ビサッシ : (社)日本サッシ協会、プラスチックサッシ工業会、VEC
3者でサッシリサイクルシステムの構築を推進中
- ⑦ 塩ビ雨樋 : 中部3県でモデル事業を実施、約3tを回収

記載内容をいくつかご紹介いたします。

<塩ビリサイクル支援制度の進捗>

開発の終了した下記2件の成果発表会を平成22年11月に行いました。
塩ビリサイクル材を使用した新製品フラクタル日除けの開発や、廃タイルカーペットから塩ビを分離・回収しペースト塩ビゾルの増量剤として再利用する技術の開発によってマテリアルリサイクルの新たな道が拓かれました。

- 塩ビリサイクル材料を用いたフラクタル日除けの開発（積水化学工業(株)）
- PVCタイルカーペット廃材のマテリアルリサイクル技術の開発（山本産業(株)）

これまで採用した5件については全て終了しましたが、平成22年には新規の応募がなかったために現在進行中の案件はありません。皆様の積極的なご提案を期待しております。

<各加工団体の活動>

7分野8団体のリサイクル活動が記されています。一例として日本カーペット工業組合の活動内容を紹介します。

日本カーペット工業組合タイルカーペット部会は、「タイルカーペトルリサイクルWG」にて、カーボンフットプリントの商品種別算定基準（PCR）を作成しました。また、リファインバース(株)において、平成22年度は約15千トンのタイルカーペットがリサイクルされました。さらに、新たなリサイクル企業としてエバタ(株)が新規参入し、6千トンのリサイクルが今後期待されます。（了）

詳細は[リサイクルビジョンのページ](#)からご覧頂けます。

■ 随想

◇オックスフォード便り（番外編：フランスその2）－蚤の市－

関東学院大学 織 朱實

暑いですね。とにかく、節電！ということで、我が家でも早々に「グリーンカーテン」「遮熱シート」「扇風機」と三種の神器を揃えたのですが（もちろん、塩ビ窓サッシは昨年既に導入済み！）、今のところ、外界の温度が高すぎて目に見えた効果までには至らず。とはいえ、この中では、グリーンカーテンが比較的健闘中。夜になるとそこはかたなく冷たい空気が室内に流れ込み、「葉っぱの蒸散作用って素晴らしい！」と中学生理科の教科書のような感想も思わずでてきます。しかし、この節電対策、費用も手間も結構かかってこんな状態、きたる8月の夏本番が思いやられます。もちろん、被災地のみなさんの暑さや大変さを思えば、ですけどね。

8月に向けて、また奥様番組（情報量はあなどれなし！）などから新しいアイデアがあったらどんどん取り入れて少しでもしのぎやすくしていくつもりです（しかし、節電グッズにかまけすぎて、地デジ対応がまだなのです。情報源がもうすぐ切断されてしまうのでまずは地デジ対応でしょうか？遅すぎですね）。

ところで、英国は「今年は、夏がない」という感じで、半そでなんてとんでもない、という気候だそうです。寒い夏なんて、夏じゃない！と英国在住中は、私も文句を言っていました。今から考えると贅沢でしたね。

今回の写真は、のびのびになっていたフランスその2「蚤の市」です。今まで行ったことがないパリということで、今年の2月の出張では、プロがあつまるクリニャークールと、セミプロと素人さんが出店をしているヴァンヴという庶民的な蚤の市の2か所に行ってきました。

英国からフランスに渡ると、「フランス編その1」でも書いたのですが国民性の違いをまず感じるのですが、街にあふれる色の独特なニュアンスにも驚かされます。欧州は、国ごとに目につく色が違うな、と思うのですが、英国ならブルー、スペインなら黄色、オレンジ、フランスはピンク、紫がとくに鮮やかで目につきます。フランスの微妙な味わいのあるピンク、紫はほかの国ではなかなか見ることができません。「蚤の市」も、英国と同様に、「こんなものまで売っての？」というガラクタの山ですが、同じガラクタでもフランスの蚤の市はやはり色が鮮やかです。



今回、土・日で尋ねたのが、プロがあつまるクリニャークールと、セミプロと素人さんが出店をしているヴァンヴという庶民的な蚤の市。まずは、ヴァンヴ。こちらは、英国と同様、基本はガラクタ。ボタンに空き缶に、日常使いのお皿にコップ、古本、壊れたおもちゃという中で、なんと！ルイヴィトンの小型のクラッチ式バックを発見。ほぼ新品。サイズもパスポートとお財布が入る可愛い感じで、50ユーロ(約5000円)。最初、70ユーロからまけてもらいました。同行者から「どこにそんなのがあったのですか？」と驚嘆された代物ですが、がらくたの山の中で、ぶーんと目の中に飛び込んできたのです。そういうのってありますよね。



そして、今回の一番の戦利品！「桃珊瑚すだまとべつ甲」のかんざし、なんと！15ユーロ！（1500円）あまりに安くて、値切ることもしませんでした（珊瑚は、間違いなく本物の「すだま」ということには確信があったのですが、べつ甲は？？もしかしたらプラスチック？帰国して着付けの先生に「正真正銘のべつ甲で、しかもかなりいいべつ甲ですよ」とお墨付きをいただきました。これは、日本の簪や古布がどーんとつまれたブースに無造作につままれていました。悔しかったのは、この時山になっていた中に他にもべつ甲の細工ものの髪飾りがあった（ち

ようど探していた花タイプの)、45ユーロ。「べっ甲なら安すぎるし、セルロイドなら高すぎる～」とやめたのですが、今考えてみればあれも本物のべっ甲だったのでしよう。惜しい！まあ、「海外でいいと思ったら、少し高いと思っても買った方がいい。」という教訓ですね（おみやげでも、「後から買おう」と思っているとみつからないものですよね）。

次は、クリニャンクール。パリ訪問の記念に、ちゃんとしたものを買おうと、クリニャンクールで購入したのは中国の清時代の鼻煙壺。北京や上海の骨董店で、鼻煙壺は気をつけてみてきたのですが、中国ではこれ！というのは見つからなかったのです（私の値段と折り合う範囲では）。でも、これは浮彫の細工が素晴らしく精巧なのと、ふたの細工もまた繊細で翡翠、サンゴが埋め込まれているのもまた、よし！250ユーロを200ユーロにしてもらいました。

クリニャンクールはプロの集まりなので、ヴァンヴと違い、そこまで「掘り出し物！」という価格はないのですが、日本物、中国物は本国よりいいものがお手頃価格で購入できる感じです。とはいっても、シノワズ扱っているお店は減ってきていて、今ではクリニャンクールの市の中でも2軒だけだそうです。「中近東からの移民の人たちが、偽ブランド売っている露店が幅闊かせていてね～」と嘆くお店のおじさん（仲良くなり、奥からもいろいろ見せてもらい、「すりには気をつけてね！」とキャッシングディスプレイにも付き合ってもらい、最後はタクシーも呼んでももらいました）。英国のバースの骨董のおじさんも、「E-bayのおかげで骨董店も随分店しめたよ。」と嘆いていましたっけ。欧州でも骨董業界のみなさん大変です。



さて、この鼻煙壺、帰国してから骨董店で値段を確認してみたら、なんと15万円で購入してくれるということで、おもわぬお宝でした。ロンドンの蚤の市ではすりにあったり、かわいい！というので安い日常雑貨を買い込んで送料のほうが高くついたり、と蚤の市めぐりはいろいろありますが、たまにこんな逆転ホームランみたいなことがあるからやめられません。まあ、自分の気に入ったものなら値段はどうでもいいのですが、それでも買った値段より高く評価されると付加価値が付いたみたいで嬉しいですよ。

次回からは3月末のベトナム出張の時の街角の様子をお伝えします。

(つづく)

オックスフォード便り

[\(番外編：フランスその1\) -世界の観光地・世界遺産モンサンミッシェル-](#)

[\(番外編：震災ボランティアに参加しました\)](#)

■ 編集後記

今週は、なでしこ快挙！金メダル獲得！との紙面が躍りました。何とも嬉しい話題です。

ワールドカップという世界での検舞台で、”なでしこジャパン”が本当にやってくれました。サッカー好き、スポーツ好きだけでなく全国民が初めての快挙に酔いしれました。



また、今週のトピックスは、リサイクル支援制度のフォローアップに関するものです。塩ビのリサイクルに関する成果を今後もアピールして行きたいと思っています。

(薩弘)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp